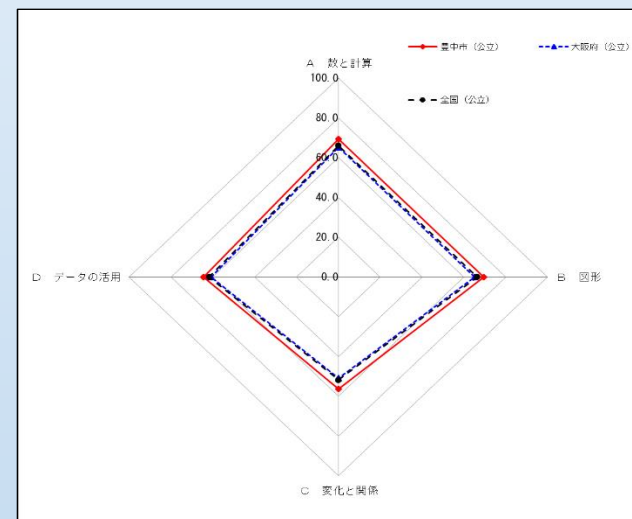


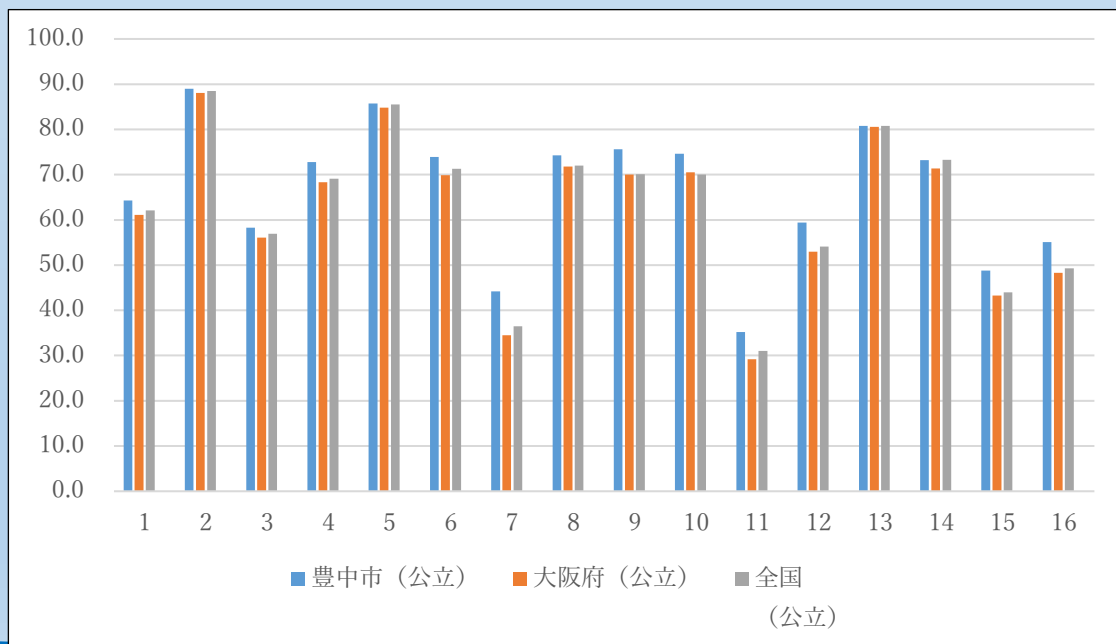
小学校 算数

【学習指導要領の内容の平均正答率（％）】

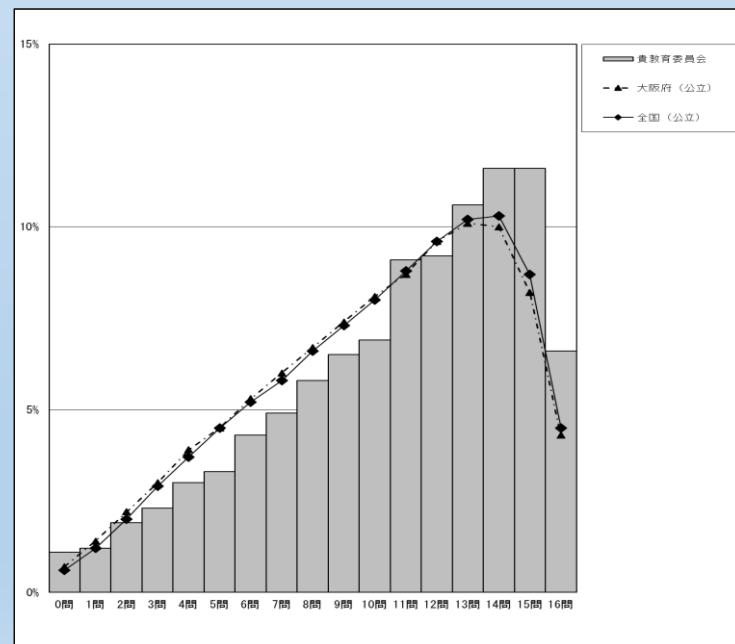
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			豊中市（公立）	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	67	63	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	69.2	65.3	66.0
	B 図形	4	69.5	65.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	56.4	50.9	51.7
	D データの活用	4	64.5	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	9	75.0	71.9	72.8
	思考・判断・表現	7	55.8	50.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	77.1	74.5	75.3
	短答式	7	66.1	61.2	62.0
	記述式	4	54.2	50.1	51.0



【算数 正答率（％）【設問ごと】（横軸：設問、縦軸：正答率）】



【算数 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



- 学習指導要領の領域別の平均正答率では、全ての区分において全国・大阪府の平均正答率を上回っています。
- 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題（４（３））については、正答率が低くなっています。

【問題別集計結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			豊中市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)	豊中市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	64.3	61.1	62.1	0.6	0.2	0.2
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	89.0	88.1	88.5	0.7	0.3	0.3
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	58.3	56.1	56.9	4.0	3.6	3.4
2 (2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	72.8	68.3	69.1	1.9	1.4	1.3
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	85.7	84.8	85.5	1.5	0.7	0.6
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	73.9	69.9	71.3	1.6	0.9	0.8
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	44.2	34.5	36.5	11.2	9.8	9.8
3 (4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	74.3	71.8	72.0	2.4	1.9	1.8
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	75.6	70.0	70.1	3.7	3.1	3.1
4 (2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	74.6	70.5	70.0	4.1	3.4	3.3
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	35.2	29.2	31.0	3.2	2.4	2.4
4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	59.4	53.0	54.1	5.9	4.3	4.6
5 (1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	80.8	80.6	80.8	2.8	1.9	1.8
5 (2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	73.2	71.4	73.3	5.4	4.2	3.9
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	48.8	43.3	44.0	13.2	12.6	12.6
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	55.1	48.3	49.3	4.9	4.0	4.0

豊中の子どもたちの
強みが見られた問題

豊中の子どもたちの
課題が見られた問題 ①

豊中の子どもたちの
課題が見られた問題 ②



小学校
算数

【問題番号】 4 (3)

豊中の子どもたちの
課題が見られた問題 ①

【正答率】 35. 2% (豊中市)
29. 2% (大阪府)
31. 0% (全 国)

【出題の趣旨】

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。



— ここがポイント —

二人の歩いた道のりとかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるようにすることが大切です。このとき、道のりが等しいことだけでなく、かかった時間が短いことも説明できるようにすることも大切です。また、道のり÷時間を用いて速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにすることも大切です。

【正答の条件】

番号を1と選び、次のA又はBのいずれかで、それぞれA①、A②の全て又はB①、B②の全てを書いている。

A 道のりが等しいことと、かかった時間を基に、わけを書いている。

A① かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数

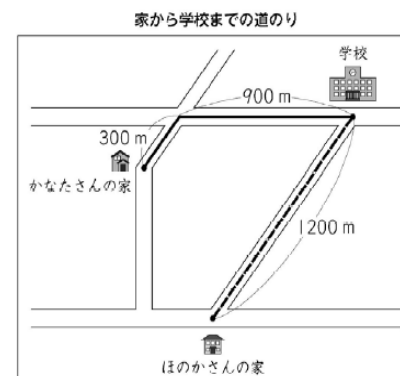
A② かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いことを表す言葉や数

B かなたさんとほのかさんのそれぞれの歩く速さを基に、わけを書いている。

B① かなたさんの歩く速さを表す数や式、言葉

B② ほのかさんの歩く速さを表す数や式、言葉

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

解答類型

	豊中市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
A①、A②の全てを書いているもの	23.5%	18.9%	19.8%
B①、B②の全てを書いているもの	11.7%	10.4%	11.2%
A①を書いているもの	30.5%	31.0%	30.8%
道が曲がっていることやまっすぐであることについて書いているもの	5.7%	6.5%	5.7%
上記以外の解答	25.4%	30.9%	30.4%
無解答	3.2%	2.4%	2.4%

【正答例】

・A

【番号】 1

【わけ】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。(解答類型1)

・B

【番号】 1

【わけ】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$ で、分速60mです。ほのかさんの歩く速さは、 $1200 \div 24 = 50$ で、分速50mです。だから、かなたさんのほうが速いです。(解答類型5)



— ここがポイント —

目的に応じて、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理し、表に表すことができるようにすることが重要です。例えば、住んでいる地域の過去の桜の開花日を調べ、月別の回数を分類整理し、表に表す活動が考えられます。その際、開花日は何月が多かったかを明らかにしたいという目的に応じて、整理する観点を定めることができるようにすることが大切です。また、住んでいる地域の開花日を調べる際には、データのどの部分が必要かを判断できるようにすることも大切です。さらに、必要なデータを落ちや重なりがないように分類整理するために、各年代が10年間であることから、開花日の月別の回数の合計が10になっているかどうかを確かめることができるようにすることも大切です。

(2) こうたさんは、同じ地域に住んでいるよしださんと、桜の開花日が何月だったかについて話しています。



私たちの住んでいるC市では、最近では、開花日が3月であることが多いと感じています。しかし、私が子どもだった1960年代は、開花日が4月であることが多かったと思います。

1960年代とは、1960年から1969年までの10年間のことです。こうたさんは、よしださんのお話を聞いて、1960年代では、3月と4月のどちらで開花日が多かったかについて、興味をもちました。

そこで、1960年代の開花日について、インターネットで調べ、右の表に整理しました。

右の表をもとにして、1960年代のC市では、開花日が3月だった年と4月だった年が、それぞれ何回あったかについて、下の表にまとめます。

C市の開花日の月別の回数 (1960年代)

開花日の月	回数 (回)
3月	㉔
4月	㉑

上の表の中の㉔、㉑にあくはまる数を書きましょう。

各市の桜の開花日 (1960年代)

年 \ 市	A市	B市	C市	D市
1960	3月28日	3月23日	3月28日	3月29日
1961	4月1日	3月31日	4月3日	4月1日
1962	4月2日	3月30日	4月6日	4月5日
1963	4月4日	4月2日	4月6日	4月5日
1964	4月4日	4月2日	4月5日	4月3日
1965	4月8日	4月2日	4月12日	4月13日
1966	3月25日	3月26日	3月26日	3月29日
1967	3月31日	3月29日	3月30日	4月1日
1968	3月31日	4月2日	4月4日	4月4日
1969	4月4日	4月5日	4月8日	4月9日

(気象庁ホームページをもとに作成。)

解答類型		豊中市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
㉔	㉑			
3 と解答	7 と解答しているもの	73.2%	71.4%	73.3%
㉔に2、㉑に8 ㉔に4、㉑に6 ㉔に5、㉑に5	と解答しているもの と解答しているもの と解答しているもの	1.9%	1.9%	1.8%
14 と解答	26 と解答しているもの	6.2%	6.6%	6.5%
0 と解答	0 と解答しているもの	0.5%	0.8%	0.7%
上記以外の解答		12.8%	14.9%	13.8%
無解答		5.4%	4.2%	3.9%



— ここがポイント —

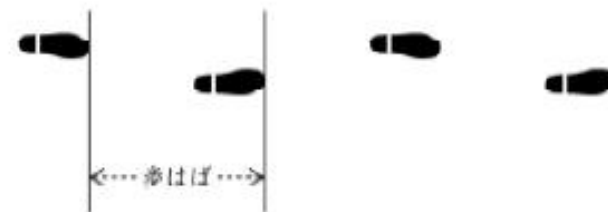
除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を利用して、計算をすることができるようにすることが重要です。例えば、本設問を用いて、 $540 \div 0.6$ の計算の仕方を考える際に、筆算による計算の仕方だけではなく、下のように、除法に関して成り立つ性質を活用して、 $540 \div 0.6$ の商が $5400 \div 6$ の商である 900 と等しいことを理解できるようにすることが大切です。また、例えば、下のように、 $540 \div \square$ の $\square$ に 1 より大きい数や小さい数を入れて被除数と商の大小を考える際に、除法では除数が 1 より大きい場合は商が被除数より小さくなり、除数が 1 より小さい場合は商が被除数より大きくなることから、 $540 \div 0.6$ の商が 540 より大きいと捉えることができるようにすることも大切です。

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 m です。あいなさんの歩はばを 0.6 m とします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

解答類型	豊中市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
900 と解答しているもの	75.6%	70.0%	70.1%
90 と解答しているもの	11.5%	15.6%	16.1%
9 と解答しているもの	4.0%	4.6%	4.2%
90、9 以外の位取りの誤りがあるもの	1.2%	1.9%	1.8%
除数と被除数を逆にして計算を考えているもの	0.0%	0.0%	0.0%
上記以外の解答	4.0%	4.0%	4.7%
無回答	3.7%	3.1%	3.1%

※このテスト及びアンケート結果は、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

